



全ては子どもたちのために

壁面に掲示してご活用ください

共に歩まん

令和3年9月17日発行

第10号

長野県中信教育事務所

シリーズ「指導と評価の一体化」～これからの学習評価とは？～

教師の指導改善とさらなる子どもの学びに向けた評価へ

新学習指導要領が施行され「指導と評価の一体化」という言葉をよく耳にしませんか？
いったいどのようなことなのでしょう。今回は、これから求められる学習評価について考
えていきましょう。

こんな課題が今までありませんでしたか？

- ▲学習の途中で評価が児童生徒にフィードバックされず、学期末や学年末などの「事後の評価」のみ伝えられることが多かったり、同じ教科でも教師によって評価の方向が異なったりして、評価が児童生徒の具体的な学習改善につながっていない。
- ▲「関心・意欲・態度」の観点について、挙手の回数や毎時間ノートをとっているかなど、性格や行動面の傾向が一時的に表出された場面を捉える評価であるような誤解が払拭しきれていない。
- ▲教師が評価のための記録に労力を割かれ、指導に注力できない。

中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会「児童生徒の学習評価の在り方について(報告)」より

課題をクリアするために

学習評価の改善の基本的な方向性

- ①児童生徒の学習改善につながるものにしていくこと
- ②教師の指導改善につながるものにしていくこと
- ③これまで慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと

学習評価は児童生徒を対象としたものだけでなく、教師の指導改善も目指したものなんだね。



評価の2つ側面

- 学習状況を見取り、生徒の成長を認め励ますとともに必要に応じて指導、支援を行う日常の学習改善につなげる評価
→「**学習改善につなげる評価**」
- 観点別学習状況の評価や評定のための資料として用いる評価
→「**評定に用いる評価**」

「成績(評定)をつける＝評価」と捉えがちだけれど、評価の2つの側面を意識した授業づくりと授業改善が求められているため、指導と評価の一体化が大切なんだね。子どもの成長を意識した評価を大事にしていくことが求められているんだね。

